

教えて！

診療・介護報酬の改定⑦

口周りの衰え 予防するには？

「虫歯を治す」から「定期的な口のケア」へ。歯科領域の今回の診療報酬改定には、予防に重点を置いた内容が盛り込まれた。狙いは食べる力の維持だ。

「ぐっと押し返してください」
東京都文京区の寺本内科歯科クリニック。通院歴約5年の男性(76)のおでこを寺本浩平理事長(43)が手で押さえて10秒間数えた。加齢のために衰える、のどの筋肉を鍛えるトレーニングの一つだ。唾液や食べ物が気管に入ると肺炎になるのを防ぐ効果もある。男性は

2カ月に1度、クリニックで歯石の除去も受ける。清潔に保つことでも肺炎のリスクが減るといいます。

ケアをしないと口の機能はさらに衰え、食事が減る。栄養不足や体力低下を招き、要介護状態になりやすくなる。こうした考え方が注目されている。日本老年歯科医学会は2016年、かむ力や舌の筋力低下など7項目のうち3項目以上にあてはまる状態を口腔機能低下症と位置づけた。4月からは65歳以上の低下症の人のうち、かみ砕く能力と舌の筋力、かむ力の

地域の歯科に定期的に通院

- ・舌や口周りの筋力、体操
- ・口の清掃方法の指導
- ・マッサージ

歯科医に ¥1000/月

口のケアの加算のイメージ (65歳以上)



口腔機能低下症の患者

☆のいずれかにあてはまる

- ☆かむ力↓ 舌の汚れ 乾燥
- ☆舌の筋力↓ 舌や唇の運動機能↓
- ☆かみ砕く能力↓ のみ込む能力↓

※3項目以上あてはまると口腔機能低下症

いずれかが衰えている外来患者への指導に加算がつく。口周りの筋肉トレーニングなどをすると月1回、千円が歯科医側に入る。患者は1〜3割を負担する。

適切な検査ができるよう検査の報酬は手厚くする。専用のグミゼリーをかんて「かみ砕く能力」を調べると1400円、専用のシートで「かむ力」を測ると1

300円が歯科医側に支払われる。どちらも半年に1度に限る。

加算の対象とし、意識を高めていきたい考えた。日本老年歯科医学会理事

寺本さんは「低下症の患者の指導に力を入れていきたい。予防的ケアの効果は患者が実感しにくいのが、通い続けてもらうため丁寧の説明していきたい」と話す。ただし低下症になるのは高齢者だけではない。東京歯科大が17年に発表した調査結果によると、都内の歯科で健診を受けた人の低下症の割合は60代で6割、70代は8割。一方で40代で4割弱、50代だと5割いた。厚生労働省はまず高齢者を

(福地慶太郎)